

CASBEE 柏2014年版
 (仮称) プリントパック柏工場新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE 柏2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE 柏2014(v.3.01)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境					0.30			2.4
1 音環境				2.0	0.15			2.0
1.1 騒音				1.0	0.40			
1.2 遮音				2.2	0.40			
1 開口部遮音性能				3.0	0.60			
2 界壁遮音性能				1.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音		グラスウールt100 24kgを周囲に設置。外部へ騒音に配慮した。		4.0	0.20			
2 温熱環境				2.0	0.35			2.0
2.1 室温制御				2.2	0.50			
1 室温				3.0	0.38			
2 外皮性能				3.0	0.25			
3 ゾーン別制御性				1.0	0.38			
2.2 湿度制御				3.0	0.20			
2.3 空調方式				1.0	0.30			
3 光・視環境				3.0	0.25			3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.30			
1 昼光率				3.0	0.60			
2 方位別開口								
3 昼光利用設備				3.0	0.40			
3.2 グレア対策				3.0	0.30			
1 昼光制御				3.0	1.00			
3.3 照度				3.0	0.15			
3.4 照明制御				3.0	0.25			
4 空気質環境				2.8	0.25			2.8
4.1 発生源対策				3.0	0.50			
1 化学汚染物質				3.0	1.00			
4.2 換気				2.3	0.30			
1 換気量				3.0	0.33			
2 自然換気性能				3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33			
4.3 運用管理				3.0	0.20			
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50			
2 喫煙の制御				3.0	0.50			
Q2 サービス性能					0.30			2.8
1 機能性				2.8	0.40			2.8
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40			
1 広さ・収納性		作業範囲が大きい為。		5.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.33			
3 バリアフリー計画				3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性				2.3	0.30			
1 広さ感・景観				1.0	0.33			
2 リフレッシュスペース		食堂や喫煙室を設け、ゆとりのある空間を設置した。		5.0	0.33			
3 内装計画				1.0	0.33			
1.3 維持管理				3.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30			2.9
2.1 耐震・免震				3.0	0.50			
1 耐震性				3.0	0.80			
2 免震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30			
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.17			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.17			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.33			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.33			

2.4 信頼性				2.8	0.20			
1	空調・換気設備			3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			2.0	0.20			
3	電気設備			3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5	通信・情報設備			3.0	0.20			
3 対応性・更新性				2.8	0.30			2.8
3.1 空間のゆとり				2.4	0.30			
1	階高のゆとり			2.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ			3.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30			
3.3 設備の更新性				3.0	0.40			
1	空調配管の更新性			3.0	0.20			
2	給排水管の更新性			3.0	0.20			
3	電気配線の更新性			3.0	0.10			
4	通信配線の更新性			3.0	0.10			
5	設備機器の更新性			3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.40			3.0
1 生物環境の保全と創出				3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.0
LR1 エネルギー				-	0.40			2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				-	-			2.0
2 自然エネルギー利用				-	-			-
3 設備システムの高効率化		BEIm	非住宅 1.00	住宅(専有部) 0.83				3.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)					3.0	1.00		
集合住宅の評価(3c)					-	-		
4 効率的運用					2.5	0.29		2.5
集合住宅以外の評価					2.5	1.00		
4.1	モニタリング				3.0	0.50		
4.2	運用管理体制				2.0	0.50		
集合住宅の評価					-	-		
4.1	モニタリング				-	-		
4.2	運用管理体制				-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.2
1 水資源保護					3.0	0.20		3.0
1.1 節水					3.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60		
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70		
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30		
2 非再生性資源の使用量削減					3.2	0.60		3.2
2.1	材料使用量の削減	鉄骨材料は主にSS400を使用している。			4.0	0.10		
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-			3.0	0.20		
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ボード			3.0	0.20		
2.5	持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	解体時に躯体と仕上げ材が容易に区別出来るようになっている。			4.0	0.20		
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.6	0.20		3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		化学物質が排出されない材料を使用している。			5.0	0.30		
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70		
1	消火剤				-	-		
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50		
3	冷媒				3.0	0.50		
LR3 敷地外環境				-	0.30			3.1
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率は一般建物同等。			3.1	0.33		3.1
2 地域環境への配慮					3.1	0.33		3.1
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.7	0.25		
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25		
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		
3	交通負荷抑制	敷地進入口を広く設け、渋滞が無い様に配慮した。			5.0	0.25		
4	廃棄物処理負荷抑制	圧縮機などによりごみを圧縮し、リサイクル回収業者により回収。			4.0	0.25		
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33		3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40		
1	騒音				3.0	0.33		
2	振動				3.0	0.33		
3	悪臭				3.0	0.33		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40		
1	風害の抑制				3.0	0.70		
2	砂塵の抑制				-	-		
3	日照障害の抑制				3.0	0.30		
3.3 光害の抑制					3.7	0.20		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」チェックリスト項目の過半を満たしている。			4.0	0.70		
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		